

稲荷祝詞

全文・ひらがな・略詞・唱え方

稲荷大神への感謝と、家業・家門の繁栄、
昼夜の守護を願う祈りを、読みやすくまとめました。

保存版 | 印刷・スマートフォン閲覧対応



稲荷祝詞の全文 | 漢字表記

以下は、家庭や個人の祈りで広く紹介されている本文の一例です。読みやすいよう句読点と改行を加えています。

掛けまくも畏き稲荷大神の大前に、畏み畏みも白さく。

朝に夕に勤み務むる家の産業を、緩ぶ事なく怠る事なく、彌奨めに奨め賜ひ、彌助けに助け賜ひて、家門高く、令吹興賜ひ、堅磐に常磐に、命長く、子孫の八十連属に至るまで、茂し八桑枝の如く立ち栄えしめ賜ひ、家にも身にも枉神の枉事あらしめず、過ち犯す事のあらむをば、神直日大直日に見直し聞き直し坐して、夜の守り日の守りに守り幸へ賜へと、大神の厚き広き恩頼に依りて、家門を起こさしめ賜ひ、立ち栄えしめ賜へと、畏み畏みも白す。

大切な注意：稲荷祝詞には複数の本文・表記・読み方があります。参拝する神社や所属する教派から指定された本文がある場合は、その案内を優先してください。

稲荷祝詞の全文 | ひらがなの読み方

一息で唱える必要はありません。読点や意味の切れ目で静かに息を継ぎ、急がず言葉を届ける意識で読みましょう。

かけまくも かしこき いなりのおおかみの おおまえに、かしこみ かしこみも もうさく。

あしたに ゆうべに いそしみ つとむる いえの なりわいを、ゆるぶことなく
おこたることなく、いやすすめに すすめたまい、いやたすけに たすけたまいて、いえかど
たくく、ふきおこさしめたまい、かきわに ときわに、いのちながく、うみのこの やそつづきに
いたるまで、しげし やえくわえの ごとく たちさかえしめたまい、いえにも みにも まがかみの まがごと
あらしめず、あやまち おかすことの あらんをば、かむなおひ おおなおひに みなおし
ききなおしまして、よのまもり ひのまもりに まもりさきわえたまえと、おおかみの あつき ひろき
みたまのふゆによりて、いえかどを おこさしめたまい、たちさかえしめたまえと、かしこみ かしこみも
もうす。

読み方のコツ

- ・最初は意味のまとまりごとに区切る
- ・速さよりも、落ち着いた声と感謝を大切にする
- ・言い間違えたときは慌てず、続きから丁寧に唱える

短い稲荷祝詞（略詞）

長い本文を覚えるのが難しい場合に用いられる、短い形の一例です。

漢字表記

掛けまくも畏き稲荷大神の大前に、畏み畏みも白さく。

大神の厚き広き恩頼に依りて、家門を起こさしめ賜ひ、立ち栄えしめ賜ひ、夜の守り日の守りに守り幸へ賜へと、畏み畏みも白す。

ひらがなの読み方

かけまくも かしこき いなりのおおかみの おおまえに、かしこみ かしこみも もうさく。

おおかみの あつき ひろき みたまのふゆによりて、いえかどを
おこさしめたまい、たちさかえしめたまい、よのまもり ひのまもりに
まもりさきわえたまえと、かしこみ かしこみも もうす。

祈りの中心

稲荷大神の厚く広い恵みに感謝し、家門が興り栄えること、昼夜に守られ幸いを授かることを願います。

稲荷祝詞の唱え方 | 7つの流れ

神社で唱える場合の一般的な流れです。現地の掲示や神職の案内がある場合は、そちらを優先してください。

	鳥居の前で一礼する
	手水が利用できる場合は手と口を清める
	拝殿前で賽銭を静かに納める
	鈴があれば周囲へ配慮して鳴らす
	二礼二拍手をして姿勢を整える
	稲荷祝詞を奏上し、感謝と願い、自分が行う努力を伝える
	一礼して静かに下がる

自宅で唱える場合

神棚を清潔に整え、可能であればお神札の前で唱えます。一例として、二礼二拍手、祓詞、稲荷祝詞、自分の言葉による感謝と願い、一礼という順序があります。祓詞の暗唱は必須ではなく、短時間の日は略詞を一度唱えて感謝を伝える形でも構いません。

回数や時間に全国共通の絶対的な決まりはありません。無理なく継続できる形を選び、願いに見合う現実の行動も大切にしましょう。